

## 「第71回 小平南西部地域コミュニティ交通をみんなで考える会」の報告

- 開催日時：令和5年4月12日（水）14時～15時15分
- 出席人数：会場9人（欠席9人） 傍聴：2人

### 1 「（仮称）小平市の地域公共交通の基本方針」策定に向けた取組状況について（報告）

公共交通課から説明

- ・取組状況と今後について、資料1に基づき説明する。令和4年度の取組状況として、小平市地域公共交通基本方針検討委員会（庁内関係課長で構成）、小平市地域公共交通会議、にじバス協議会、コミュニティタクシーを考える会、コミュニティ交通をみんなで考える会の各会議を開催した。また、市民の意識・実態調査として、アンケート調査（対象者：市民等）、ヒアリング調査（対象者：コミュニティバス・コミュニティタクシーの利用者、地域活動団体、運行事業者）、ワークショップを行い、結果を市のホームページで公表した。会議や市民の意識・実態調査を踏まえ、骨子案を作成した。
- ・令和5年度の予定として、小平市地域公共交通基本方針検討委員会等の会議を開催して、検討を行い、12月にパブリックコメントを実施、令和6年3月に基本方針を策定する。
- ・アンケート調査、ヒアリング調査、ワークショップの集計結果等について、資料2-1～3に基づき説明する。
- ・骨子案について、資料3に基づき、基本方針の目標・位置付け、対象期間、地域公共交通の基本理念、地域公共交通の課題、基本方針・基本目標を説明する。

### 質疑

- ・アンケート調査やヒアリング調査において、コミュニティタクシーの土・日運行や、市役所への運行ルートの要望が出ている。これまでも同じ要望があったが、対応は難しいとのことであった。これらについては、基本方針に反映されるのか。  
→（公共交通課）コミュニティタクシーの土・日運行を行うには、運行経費が追加で掛かるので、市の補助金のあり方、運賃設定なども再考しなければならない。これらは基本方針を策定する中で検討していく項目なので、合わせて検討していくことになる。
- ・資料1の1 令和4年度の取組状況、（1）各会議の開催の中で、小平市地域公共交通基本方針検討委員会や地域公共交通会議とあるが、構成メンバーは。  
→（公共交通課）小平市地域公共交通基本方針検討委員会は、庁内の関係10課長で構成されている。メンバーは、公共交通課長、生活支援課長、政策課長、市民協働・男女参画推進課長、産業振興課長、地域包括ケア推進担当課長、障がい者支援課長、環境政策課長、道路課長、交通対策課長である。地域公共交通会議は、道路運送法により設置が義務付けられているもので、メンバーは、バス事業者、タクシー事業者、市民又は利用者の代表、国土交通省関東運局東京運輸支局長、警察署長、道路管理者、学識者などである。

- ・小平市地域公共交通基本方針検討委員会の開催回数は。  
→（公共交通課）令和4年度は、書面開催も含め、5回開催した。
- ・交通手段について検討することも大切だが、前提として道路整備が重要と考える。道路整備が進めば、運行ルートの制限も少なくなるので、道路整備が進むような働きかけを行うことも必要と考える。

## 2 デマンド型交通の検討について

公共交通課から資料3に基づき説明

### (1) デマンド型交通の考えについて

考える会で検討した内容に対して、庁内調整において再検討が必要となった主な項目は、対象者についてである。デマンド型交通は、コミュニティタクシーに代わる新しい交通手段であり、現在、コミュニティタクシーを運行している他の地域との均衡を考慮する必要がある。これらの地域は対象者を絞っていないことから、南西部地域についても対象者を絞ることについては再検討が必要と考えている。

#### 質疑

- ・小平方式（南西部地域の特性やニーズに即した）を決めていくにあたっては、核となるものを固めてから、他市の事例を参考にした方が良い。中部地方ではICTを活用して、うまくいっている事例があると聞いている。  
デマンド型交通には様々な方式があるが、うまくいっている事例として、運行経費の赤字分を減少させている事例を参考にするのが良い。
- ・これまで運行システムの項目については、考える会で概ね固めてきたが、中には再検討が必要な項目も出てきたとのことである。運行システムの核となる項目については、しっかりと決めて、検討を進めるにあたっては議論がぶれないように進めていって欲しい。
- ・鉄道や路線バスで担保できない交通弱者を救うことが、持続可能なまちづくりにおける公共交通ということで、今検討しているデマンド型交通になる。対象者を絞ったならば、その対象者への案内については、妊産婦は母子手帳の交付時、65歳以上は前期高齢者医療費制度の案内時、3歳児未満の保護者は乳幼児検診時に案内することができる。
- ・絞った対象者の主な利用目的は何か。  
→（公共交通課）65歳以上は、買物と通院の両方で、妊産婦と3歳未満児の保護者は買物である。
- ・予約してから利用するまでの時間は、買物は短くていいのか。検診や通院は、長くて良いのか。
- ・当日まで予約を受け付けるという考えもあるが、乗り合うことを考慮すると調整する時間が必要なので、前日までの予約とした方が良いのでは。
- ・対象者を絞ってしまうと予約も少なくなってしまうので、対象者は多い方がいいのでは。予約が重なった場合については、時間を少しずらして対応してもらえば、済むのではないか。

- ・そういった具体的な予約受付方法などを検討して、小平市の方式にあった他市のシステムを参考にして進めていくことが必要と考える。
- ・買物や通院には、往復の利用が想定される。行きは予約できても、帰りは予約できないと不都合なので、実際にデマンド型交通を導入している自治体に、往復の予約受付について、どのように対応しているかを、確認することが必要である。

(座長) 公共交通なので、本来、誰でも利用できるようにした方が良いが、考える会で65歳以上などと対象を絞ったのは、予約が殺到して真に必要な方が利用できなくなることを懸念したからで、安全策として対象者の設定を考えた。実証実験運行を行い、うまくいけば対象者を広げていき、将来的には全ての方を対象にするという考えもある。

安全策という意味での設定なので、利用者が少なかったら絞りは外していくことになると思う。

- ・登録者が多いと、対応できなくなるのでは。

(座長) 多くの利用があれば、2台目を追加することも検討に入れる必要があるかもしれない。

- ・一番優先しなければならないことは、運行システムを選定することである。早く実証実験ができるように進めて欲しい。

→ (公共交通課) 運行システムの導入は、必要と考えているので、システムの選定については優先して進めていく。

- ・運行システムについては、実際に展示会などでデモを見ると、参考になると考える。

## (2) 今後の予定について

### 質疑

- ・スケジュールの中に、PR・周知活動の検討・実施として、地元自治会への説明会とあるが、デマンド型交通は新しい交通手段なので理解することが難しい。実際にデマンド型交通を利用したことがない、考える会のメンバーがPRするのは難しいのではないかと。まず、デマンド交通が運行している地域に行き、実際に乗って体験してみるのが良い。他市で実際に利用した方の意見を聞き、伝えることで大いに参考になると考える。

近隣でデマンド型交通を運行している自治体は。

→ (公共交通課) 東久留米市と三鷹市で運行している。東久留米市は、利用登録が必要で、市民でないと登録ができないが、三鷹市は利用登録が不要で、市民でなくても予約をして乗車することができる。

### 3 その他

#### (1) 市からの情報提供

- ・バスとタクシーのひろば in小平2023の開催について  
開催日時：令和5年5月21日（日）午前11時～  
開催場所：新東京自動車教習所  
→開催内容の説明、ボランティアとしての協力依頼を行った。

#### (2) 参加団体からの情報提供

- ・特になし

#### 《今後の予定》

**第72回 令和5年6月14日（水）14時から開催**

**※場所 小川町一丁目地域センター 集会室3**

今回は、デマンド型交通の考え方や、再検討する内容について、確認する。